

決算に合わせて開示する高速道路事業関連情報

(令和7年度)

1. 債務返済の状況

- (1) 財務諸表における債務状況
 - ① 債務残高の推移
 - ② 資金調達の状況
 - ③ 有利子債務の平均利率
- (2) 債務返済計画における債務返済状況
 - ① 債務返済計画と実績の推移
 - ② 令和7年度における債務返済計画と実績の対比
 - ③ 全国路線網について4社ごとに貸付料で返済する債務の額を試算した債務残高の計画と実績の対比
 - ④ 会社も含めた高速道路事業全体の債務残高及び債務返済状況（債務返済計画ベース）

2. 財務諸表のセグメント情報

- (1) 機構のセグメント情報
- (2) 機構のセグメント情報（全国路線網の会社所管分内訳）（試算値）
- (3) 会社の財務情報（会社情報の総括）
- (4) 機構と会社の資産と債務の状況（決算ベース）
- (5) 営業中高速道路の路線別資産額

3. 高速道路収支関連情報

- (1) 高速道路の収支率（試算値）
- (2) 路線別営業収支差（料金収入から会社の管理費を除いたもの）（会社情報の総括）
- (3) 金利の路線別配賦（試算値）

4. 建設・維持・管理の状況

- (1) 建設の状況
- (2) 維持・管理の状況

5. 道路資産の保有及び貸付状況

注)「(会社情報の総括)」とは、高速道路会社（以下「会社」という。）から提供を受けた情報を一覧表形式にまとめたもの。

1. 債務返済の状況

(1) 財務諸表における債務状況

① 債務残高の推移

令和7年度中の独立行政法人日本高速道路保有・債務返済機構（以下「機構」という。）の債務残高の推移は、下表のとおりです。

期首（令和7年4月1日）の債務残高は24兆4,224億円でしたが、期中に1兆5,045億円の債務を引き受け（会社から道路資産とともに引き受けたもの）、2兆7,844億円の返済及び総額6,389億円の資金調達を行った結果、期末（令和8年3月31日）の債務残高は23兆7,848億円となりました。

なお、決算ベースの債務残高（約23兆7,848億円）から現預金等を加減算した、債務返済計画における債務残高（約23兆6,486億円）の詳細はP3「(2) 債務返済計画における債務返済状況」をご参照ください。

令和7年度の債務残高の推移

		令和7年度	(参考) 令和6年度
期首債務残高	A	24兆4,224億円	25兆1,204億円
債務引受額	B	1兆5,045億円	1兆3,222億円
債務返済額	C	2兆7,844億円	3兆1,164億円
資金調達額	D	6,389億円	1兆927億円
債券発行差額償却による簿価増	E	34億円	34億円
期末債務残高	A + B - C + D + E	23兆7,848億円	24兆4,224億円

注1) 資本金及び道路承継未払金（令和6年度末1,200億円、令和7年度末1,134億円）は含んでいません。

注2) 端数処理の関係上、計が合わないことがあります。

債務種類別推移

[単位：億円]

債務の区分		借入金・債券（額面）					発行 差額 残高	期末 簿価	（参考） 発足時
		期首 残高	当期増加		当期減少	期末 残高			
			借入・発行	債務引受	返済・償還				
長期 借入金	政府借入金（無利子）	70	—	—	49	21	—	21	7, 800
	政府借入金（有利子）	55, 140	—	330	—	55, 470	—	55, 470	87, 693
	民間借入金	5, 649	—	1, 716	2, 645	4, 720	—	4, 720	31, 784
	計	60, 859	—	2, 046	2, 694	60, 211	—	60, 211	127, 276
債券	政府保証債	107, 075	5, 200	—	7, 110	105, 165	1	105, 164	59, 424
	政府引受債	—	—	—	—	—	—	—	145, 832
	財投機関債	57, 949	1, 189	400	10, 849	48, 689	432	48, 257	23, 925
	縁故債	—	—	—	—	—	—	—	18, 080
	その他の社債	16, 692	—	12, 598	6, 510	22, 781	—	22, 781	—
	計	181, 717	6, 389	12, 998	24, 469	176, 635	434	176, 201	247, 261
長期未払金 （東京湾横断道路建設長期未払金）		2, 116	—	—	680	1, 436	—	1, 436	7, 239
債務計		244, 692	6, 389	15, 045	27, 844	238, 282	434	237, 848	381, 775
（うち有利子債務）		244, 621	6, 389	15, 045	27, 794	238, 261	434	237, 827	373, 976
資本金		56, 191	1		—	56, 192	—	56, 192	43, 712
債務と資本金の合計		300, 883	21, 434		27, 844	294, 474	434	294, 040	425, 487

注1) 道路承継未払金は含んでいません。

注2) 資本金の欄には高速道路勘定の資本金を表示しています。

注3) 端数処理の関係上、計が合わないことがあります。

② 資金調達の状況

令和7年度の資金調達は、政府保証債5,200億円、財投機関債1,189億円の総額6,389億円を実施しました。

長期的な資金収支を見通し、金利上昇リスクの軽減や効率的な債務返済の観点から各年度の資金調達需要を平準化させるよう多様な年限の債券を発行しました。また、IR活動を通じて投資家需要を把握し、オッド年限も活用して発行したことで、基軸年限のみの発行による需給や調達条件悪化を引き起こすことなく、資金調達を行いました。

なお、令和4年度から引き続き投資家層の拡大・中長期的な安定調達・調達コストの抑制を図るため、政府保証債及び財投機関債においてソーシャルボンドを発行しました。

令和7年度資金調達実績（概要）

調達手段	年限	回数	調達額	平均利率
政府保証債	5年	4回	1,300億円	1.20%
	7年	4回	1,200億円	1.47%
	10年	12回	1,700億円	1.82%
	15年	4回	400億円	2.24%
	20年	6回	600億円	2.71%
	計	30回	5,200億円	1.72%
財投機関債	5年	6回	590億円	1.25%
	15年	3回	150億円	2.32%
	20年	4回	299億円	2.62%
	21年	1回	100億円	2.43%
	22年	1回	50億円	2.60%
	計	15回	1,189億円	1.89%
合 計		45回	6,389億円	1.75%
平均調達年限		10.1年		
保有債務の平均残存年限		13.4年（発足時5.1年）		

注1）平均利率は、調達額と応募者利回り又は借入利率を使った加重平均で表示しています。

注2）端数処理の関係上、計が合わないことがあります。

令和7年度の資金調達の状況

別添資料 P1-2

③ 有利子債務の平均利率

有利子債務の平均利率は下表のとおり、期末時点で1.03%となりました。

有利子債務の平均利率

		金 額	平均利率
発足時（平成17年10月1日）の有利子債務残高		37兆3,976億円	1.80%
令和7年度期首有利子債務残高		24兆4,153億円	0.98%
期中増減	債務引受額	1兆5,045億円	0.32%
	債務返済額	△2兆7,794億円	0.32%
	資金調達額	6,389億円	1.75%
	債券発行差額償却による簿価増	34億円	—
令和7年度期末有利子債務残高		23兆7,827億円	1.03%

注1) 道路承継未払金は含んでいません。

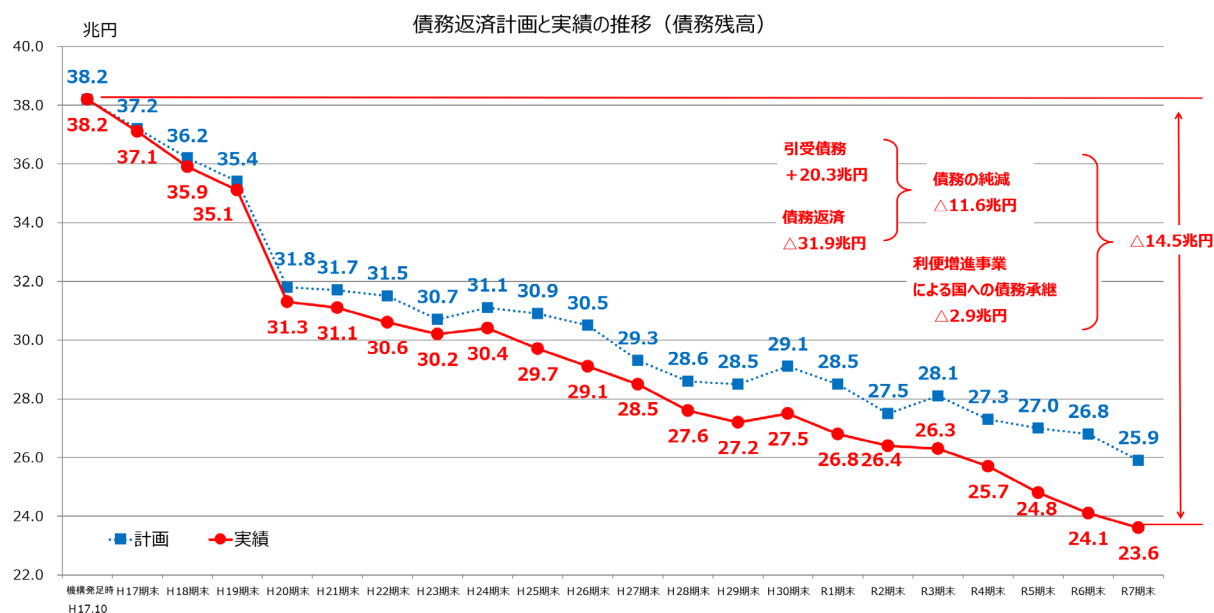
注2) 借入金に係る平均利率は借入額と借入利率を使った加重平均で表示し、債券に係る平均利率は調達額と債券発行時の応募者利回りを使った加重平均(但し「債務引受額」に含まれる債券は引受時の簿価と表面利率を使った加重平均)で表示しています。

注3) 端数処理の関係上、計が合わないことがあります。

(2) 債務返済計画における債務返済状況

① 債務返済計画と実績の推移

機構発足時からの債務返済計画と実績の推移は以下のとおりです。



※グラフ上の計画値は、当該年度が計画値となっている最新の協定の値です。

※端数処理の関係上、計が合わないことがあります。

※債務返済計画と財務諸表では数値の扱いが異なる部分がありますので、計画実績対比を行う際には債務返済計画ベースの考えに合わせて債務残高を計算しています。具体的には、債務返済計画ベースでの債務残高は、財務諸表の債務残高から現預金分を控除しています。また、未収金・未払金は、債務返済計画ベースでは当該年度の収入・支出としています。

② 令和7年度における債務返済計画と実績の対比

令和7年度における債務返済計画と実績の対比の概要は以下のとおりです。

令和7年度における債務返済計画と実績の対比（総括表概要）

[単位：億円（消費税込み）]

		合計	全国路線網	首都高速道路	阪神高速道路	一の路線
債務残高（令和7年度期首）						
	特定更新等工事に係る債務を除くその他の債務					
	計画（A）	226,147	169,902	33,805	22,325	116
	実績（B）	225,522	169,902	33,805	21,731	85
	差額（B）－（A）	△ 625	0	0	△ 594	△ 31
	特定更新等工事に係る債務					
	計画（A）	16,073	11,381	3,022	1,669	-
	実績（B）	15,622	11,381	3,022	1,218	-
	差額（B）－（A）	△ 451	0	0	△ 451	-
会社からの引受け債務（注1）						
	特定更新等工事に係る債務を除くその他の債務					
	計画（A）	21,991	20,650	940	394	8
	実績（B）	9,100	8,625	225	247	3
	差額（B）－（A）	△ 12,891	△ 12,025	△ 715	△ 147	△ 4
	特定更新等工事に係る債務					
	計画（A）	15,205	13,578	1,218	409	-
	実績（B）	5,845	4,995	508	342	-
	差額（B）－（A）	△ 9,360	△ 8,583	△ 710	△ 67	-
特定更新等工事に係る債務						
	債務返済開始前の引受け債務に係る消費税相当額					
	計画（A）	△ 1,381	△ 1,234	△ 111	△ 37	-
	実績（B）	△ 531	△ 454	△ 46	△ 31	-
	差額（B）－（A）	850	780	65	6	-
	債務返済開始前の支払利息相当額					
	計画（A）	186	139	30	16	-
	実績（B）	154	114	28	12	-
	差額（B）－（A）	△ 31	△ 25	△ 2	△ 4	-
収入						
	計画（A）	21,941	18,412	2,027	1,487	16
	実績（B）	22,702	19,101	2,029	1,553	20
	差額（B）－（A）	761	689	2	66	4
支出						
	計画（A）	2,567	1,780	419	366	2
	実績（B）	3,477	2,654	484	338	2
	差額（B）－（A）	910	874	65	△ 28	0
収支差						
	計画（A）	19,374	16,632	1,608	1,121	14
	実績（B）	19,225	16,447	1,545	1,215	18
	差額（B）－（A）	△ 149	△ 185	△ 62	94	4
債務残高（令和8年度期首）						
	特定更新等工事に係る債務を除くその他の債務					
	計画（A）	228,764	173,920	33,137	21,598	109
	実績（B）	215,397	162,080	32,484	20,763	70
	差額（B）－（A）	△ 13,367	△ 11,840	△ 652	△ 835	△ 39
	特定更新等工事に係る債務					
	計画（A）	30,082	23,865	4,159	2,058	-
	実績（B）	21,090	16,036	3,512	1,542	-
	差額（B）－（A）	△ 8,992	△ 7,829	△ 647	△ 516	-
	債務残高の総額					
	計画（A）	258,845	197,785	37,296	23,656	109
	実績（B）	236,486	178,116	35,996	22,305	70
	差額（B）－（A）	△ 22,359	△ 19,669	△ 1,299	△ 1,351	△ 39

注1）「会社からの引受け債務」では、機構が国等からの出資金及び補助金を財源として会社へ貸し付けた無利子借入金に係る債務は除いています。

注2）端数処理の関係上、計が合わないことがあります。

※債務返済計画と財務諸表では数値の扱いが異なる部分がありますので、計画実績対比を行う際には債務返済計画ベースの考えに合わせて債務残高を計算しています。具体的には、債務返済計画ベースでの債務残高は、財務諸表の債務残高から現預金分を控除しています。また、未収金・未払金は、債務返済計画ベースでは当該年度の収入・支出としています。

【特定更新等工事に係る債務を除くその他の債務】

令和7年度期首債務残高は22兆5,522億円でした。令和7年度は、収支差1兆9,225億円、会社からの引受け債務9,100億円の結果、令和8年度期首債務残高は令和7年度期首に比べ1兆0,125億円減少して21兆5,397億円となり、計画に対しては1兆3,367億円下回りました。

（会社からの引受け債務）

会社からの新たな引受け債務（道路資産の帰属の際に引き受けるもの。無利子借入金を除く。）は9,100億円で、計画を1兆2,891億円下回りました。これは、供用・事業完了予定、修繕工事の工程を見直したことによるものです。

（収入）

収入の大宗を占める会社からの貸付料収入の増もあり、収入の合計は2兆2,702億円となり、計画を761億円上回りました。

（支出）

低金利の資金調達によって支払利息が計画より減少した一方で、会社からの引受け債務が計画を下回ったことにより消費税の還付が減少した結果、支出の合計は3,477億円となり、計画を910億円上回りました。

【特定更新等工事に係る債務】

令和7年度期首債務残高は1兆5,622億円でした。令和7年度は、会社からの引受け債務5,845億円、債務返済開始前の引受け債務に係る消費税相当額が△531億円となったこと等から、令和8年度期首債務残高は2兆1,090億円となり、計画に対しては8,992億円下回りました。

（会社からの引受け債務）

会社からの新たな引受け債務は5,845億円で、計画を9,360億円下回りました。これは、工法検討や工事実施方法の調整に伴い、工程を見直したことによるものです。

【債務残高の総額】

以上の結果、令和8年度期首債務残高の総額は23兆6,486億円となり、計画に対しては2兆2,359億円下回りました。

債務返済計画と実績の対比（総括表） **別添資料 P3-4**

個別の債務返済計画における計画実績対比は別添資料5ページ以下のとおりです。計画と実績の差異の説明を付しておりますので、個別計画の実績との対比につきましては、こちらをご参照ください。

債務返済計画と実績の対比 **別添資料 P5-16**

- ③ 全国路線網について４社ごとに貸付料で返済する債務の額を試算した債務残高の計画と実績の対比

機構は中期計画において、全国路線網の４社ごとの貸付料で返済する債務を試算し、会社ごとの返済達成状況を公表することとしています。令和８年度期首の債務残高の計画と実績の対比は、別添資料１７ページのとおりです。

全国路線網に属する高速道路における東日本高速道路㈱、中日本高速道路㈱、西日本高速道路㈱及び本州四国連絡高速道路㈱から徴収する貸付料を充てて返済を行う債務の額を会社ごとに試算した令和８年度期首の債務残高の計画と実績の対比

別添資料 P17

- ④ 会社も含めた高速道路事業全体の債務残高及び債務返済状況（債務返済計画ベース）

「独立行政法人の事務・事業の見直しの基本方針」（平成２２年１２月７日閣議決定）を踏まえ公表することとした、機構と会社を合わせた高速道路事業全体の債務残高及び債務返済状況（債務返済計画ベース）は、別添資料１８ページのとおりです。

会社も含めた高速道路事業全体の債務残高及び債務返済状況 別添資料 P18

2. 財務諸表のセグメント情報

(1) 機構のセグメント情報

機構ではより詳細な財務情報を提供することを目的として、高速道路事業の貸借対照表と損益計算書をセグメント単位（債務返済計画の策定単位ごと）に分けて表示しています。これは、機構の資産・負債あるいは収入・支出をセグメントごとに分解・再編集したものです。具体的には、道路資産及びその減価償却費、貸付料収入、旧公団や道路会社から承継した債務及びその支払金利等のように各セグメントに直接賦課できるものは直接セグメントに賦課し、それ以外の機構の一般管理費や新たに発行した機構債及びその支払金利等は、各セグメント別貸付料比率等で按分を実施し結果を表示しています。

機構のセグメント情報（高速道路勘定・損益計算書）（試算値）（概要）

[単位：億円（消費税抜き）]

	全国 路線網	地域路線網		一の路線	損益計算書 計上額
		首都 高速道路	阪神 高速道路		
経常損益	5,517	△28	171	11	5,672
臨時損益	6	251	139	-	398
当期利益	5,524	222	311	11	6,070

注）端数処理の関係上、計が合わないことがあります。

機構のセグメント情報（高速道路勘定・損益計算書） 別添資料 P19-20

機構のセグメント情報（高速道路勘定・貸借対照表）（試算値）（概要）

[単位：億円（消費税抜き）]

	全国 路線網	地域路線網		一の路線	貸借対照表 計上額
		首都 高速道路	阪神 高速道路		
総資産	329,662	54,326	27,652	100	411,742
総負債	182,964	38,311	24,531	65	245,872
純資産	146,698	16,015	3,121	35	165,870

注）端数処理の関係上、計が合わないことがあります。

注）一の路線には、債務返済を終えた一の路線にかかる勘定残高も含まれます。

機構のセグメント情報（高速道路勘定・貸借対照表） 別添資料 P21-22

(2) 機構のセグメント情報（全国路線網の会社所管分内訳）（試算値）

機構の財務諸表のセグメント情報における全国路線網分を、さらに東日本高速道路(株)、中日本高速道路(株)、西日本高速道路(株)及び本州四国連絡高速道路(株)の各会社所管分に分けたものを試算しました。

機構のセグメント情報（損益計算書）
（全国路線網の会社所管分内訳）（試算値）（概要）

[単位：億円（消費税抜き）]

	東日本高速道路 (株)所管分	中日本高速道路 (株)所管分	西日本高速道路 (株)所管分	本州四国連絡高速 道路(株)所管分	合計
経常費用	3,829	3,641	3,939	480	11,890
経常収益	6,037	5,072	5,794	504	17,408
経常損益	2,207	1,431	1,855	23	5,517
臨時損益	2	3	0	-	6
当期利益	2,209	1,435	1,855	23	5,524

注) 端数処理の関係上、計が合わないことがあります。

機構のセグメント情報（損益計算書）（全国路線網の会社所管分内訳）（試算値）

別添資料 P23

機構のセグメント情報（貸借対照表）
（全国路線網の会社所管分内訳）（試算値）（概要）

[単位：億円（消費税抜き）]

	東日本高速道路 (株)所管分	中日本高速道路 (株)所管分	西日本高速道路 (株)所管分	本州四国連絡高速 道路(株)所管分	合計
総資産	103,076	100,831	105,033	20,721	329,662
総負債	68,227	53,183	52,742	8,810	182,964
純資産	34,342	53,500	49,001	9,853	146,698

注1) 端数処理の関係上、計が合わないことがあります。

注2) 貸借差額調整勘定は除いています。

機構のセグメント情報（貸借対照表）（全国路線網の会社所管分内訳）（試算値）

別添資料 P24

(3) 会社の財務情報（会社情報の総括）

会社の財務情報を一覧表形式で取りまとめています。

会社連結損益計算書一覧	別添資料 P25
会社連結貸借対照表一覧	別添資料 P26

(4) 機構と会社の資産と債務の状況（決算ベース）

会社6社が借入金等により高速道路を建設し、供用の時点で機構がその債務と道路資産を引き受けるという仕組みの下では建設期間中の道路資産・債務は会社が保有しています。機構の保有する道路資産（建設仮勘定を含む。）及びそれらに係る債務と、会社が保有する建設期間中の道路資産（仕掛道路資産）及びそれに係る債務を債務返済計画の策定単位ごとに示し、機構と会社が保有する高速道路に関する資産と債務の状況を合わせて把握できるようにしています。

機構と会社の資産と債務の状況 **別添資料 P27**

機構と会社を合わせた高速道路事業全体の債務の状況の推移（決算ベース）は別添資料 28 ページのとおりです。

機構と会社の債務の状況の推移 **別添資料 P28**

(5) 営業中高速道路の路線別資産額

令和7年度末の営業中の道路資産額は 40 兆 6,068 億円となります。

営業中高速道路の路線別資産額 **別添資料 P29-34**

3. 高速道路収支関連情報

(1) 高速道路の収支率（試算値）

旧公団は、高速道路の収支状況を路線別に「料金収入等（占用料収入等を含む。）」に対する「支払金利と管理費」の割合（収支率）で示してきました。民営化によって金利の支払主体が機構になったことから、路線別の営業収支差は（2）のとおり料金収入から会社の管理費を除いたもので示しています。一方で、機構の支払金利をセグメント単位（債務返済計画単位）に分けることは可能であることから、セグメントごとに「会社の料金収入」に対する「会社の管理費と機構の支払金利（建設仮勘定分を除く。）」の割合で令和7年度の収支率を試算しており、その結果は別添資料 35 ページのとおりです。

いずれのセグメントにおいても収支率は 100 を下回っており、債務返済に向けたキャッシュフローが確保できていることが確認されます。

高速道路の収支率（試算値） **別添資料 P35**

(2) 路線別営業収支差（料金収入から会社の管理費を除いたもの）（会社情報の総括）

令和7年度の会社別の営業収支差（料金収入から会社の管理費を除いたもの）は下表のとおり、6 社合計で 2 兆 0,222 億円となりました。

令和7年度の会社別営業収支差

[単位：億円（消費税抜き）]

	料金収入 A	管理費 B	営業収支差 A－B
東日本高速道路(株)	8,548	2,652	5,896
中日本高速道路(株)	7,065	2,122	4,943
西日本高速道路(株)	8,032	2,368	5,664
本州四国連絡高速道路(株)	703	205	498
首都高速道路(株)	2,757	945	1,812
阪神高速道路(株)	1,924	515	1,408
計	29,027	8,806	20,222

注1) 料金収入と管理費は会社の損益計算書上の値と異なる場合があります。

注2) 端数処理の関係上、計が合わないことがあります。

また、それぞれの路線別営業収支差は別添資料 36～39 ページをご参照下さい。

路線別営業収支差（会社情報の総括） **別添資料 P36-39**

(3) 金利の路線別配賦（試算値）

機構では、決算開示に合わせて、路線ごとの配賦金利として営業収支差按分（フローに着目した配賦）と資産価額按分（ストックに着目した配賦）の2通りの試算値を収支計算から独立させた形で示すこととしています。それぞれの金利の路線別配賦（試算値）は別添資料 40～45 ページをご参照下さい。

金利の路線別配賦（試算値） **別添資料 P40-45**

4. 建設・維持・管理の状況

(1) 建設の状況：建設コストの計画と実績

令和7年度における建設コストとして、会社から引き受けた債務の計画（債務引受限度額）と実績（債務引受額）の対比を示します。なお、機構が会社から引き受ける債務は直接工事費と調査・設計に要した費用及び建設期間中に発生した金利などから構成されています。

令和7年度は14,993億円※の債務を引き受けましたが、全ての区間において引受額は限度額を下回っています。

建設の内容は大別して、新設、改築、資本的支出となる修繕、災害復旧、特定更新等工事となります。

※会社が有利子で調達した債務と機構が国等からの出資金及び補助金を財源として会社に貸し付けた無
利子借入金に係る債務の合計。

建設コストの計画と実績 **別添資料 P46-47**

(2) 維持・管理の状況

ア 適切な維持、管理の実現に向けた枠組み

高速道路の維持、管理については、会社と機構が役割を分担し実施しています。会社は、道路整備特別措置法に基づき高速道路を常時良好な状態に保つように維持、修繕、料金徴収等を行うなど、有料道路としての高速道路の維持、管理に関する役割を担い、機構は、危険物積載車両の通行の禁止又は制限、特殊車両通行許可、車両制限令違反措置命令、道路占用許可など、道路管理者権限の代行を担当しています。

会社は、高速道路を良好な状態に保つために維持、修繕等を行い、その実施状況を毎年度機構に報告することになっています。機構は、会社から管理の実施状況について報告を受け、高速道路の管理に要する費用が何に使われているか、更には会社が責任を持って行う管理の財源の手当てが十分に行われているかなどを実地にて確認し、必要に応じて協定変更を行うとともに会社による管理の実施状況の情報の共有化等を図っています。

イ 管理コストの計画と実績

令和7年度の各会社の管理コストの計画と実績の対比を示します。計画値と実績値との差の主な理由は、維持修繕費については点検結果等に基づく補修に要する費用の増や大雪や災害対策に要する費用の増、管理業務費については緊急対応に備えた巡回体制強化による費用の増、一般管理費等については事務費や減価償却費の減となっております。

管理コストの計画と実績（会社情報の総括） **別添資料 P48**

ウ アウトカム指標の計画と実績

各会社の高速道路の安全性及び利便性の向上並びにお客様に分かりやすく管理の状況を示すことを目的として、会社間共通の客観的指標（アウトカム指標：死傷事故率、渋滞損失時間、総合顧客満足度など）を設けています。

各アウトカム指標の令和7年度における実績値（速報値）を示すとともに、一部指標については中期目標値（令和11年度）を設定しています。

各会社のアウトカム指標一覧表 別添資料 P49-73

エ 管理の報告書

会社との協定に基づき、毎年度、会社から機構に「維持、修繕その他の管理の報告書」（以下「管理の報告書」という。）が提出されます。

各会社が管理する高速道路は、構造や交通特性、気象条件等がそれぞれ異なりますので、具体的な取り組みは各会社独自のものとなります。このため、管理の報告書には各会社を取り巻く状況やその他の要因を反映し、高速道路の管理に取り組んだ業務の実施概要（点検・診断の結果等）、管理業務の成果あるいは目標に対する達成状況、アウトカム指標の要因分析等が記載されています。

令和7年度にとりまとめた令和6年度の管理の報告書は、安全・安心で快適な高速道路空間の創出に向けた取り組みや災害対応等の特徴的な取り組みを重点的にとりまとめたダイジェスト版を作成するなど、更なる充実を図りました。

なお、管理の報告書・仕様書については、ホームページ <https://www.jehdra.go.jp/kousoku/kanri.html> に掲載されておりますので、そちらをご覧ください。

5. 道路資産の保有及び貸付状況

機構は高速道路を保有し、会社に貸し付けることで貸付料収入を得て債務返済を行っています。機構では、平成18年3月31日に各会社と締結した協定の対象になっている路線について、保有及び貸付状況を管理するために各種の台帳類を整備・更新し、ホームページで直近の保有及び貸付状況を総括表と路線ごとの個別表により公表しています。

令和7年度は、新規供用による18.7kmの増があった結果、令和7年度末における高速道路の保有・貸付延長は、供用区間が10,505km、新設区間を合わせた総延長は10,536kmとなりました。

路線毎の個別表は、延長距離、区間、重要な経由地、区間毎の供用開始年月日など高速道路の状況を記録しています。

道路資産保有及び貸付状況（総括表）（令和8年3月31日時点） 別添資料 P74